

賃貸マンション
管理のことなら

JSCに
お任せください!

忙しいオーナー様でも安心!

◆ こんな悩みありませんか? ◆

- Case 1 空室がなかなか決まらない
- Case 2 家賃の滞納で困っている
- Case 3 毎月の管理費や固定経費が高い
- Case 4 現在依頼している管理会社に満足できない

JSCが行う
3つの強み

管理手数料は家賃の3%

迅速で誠実な対応、こまやかな報告

高い客付け力で空室を作らない

当社の管理手数料は、一般的な相場よりも低い家賃の3%、家賃5万円以下の物件は1室1500円とリーズナブルです。

トラブルに素早く誠実に対応。報告書も毎月お送りします。オーナーの経済的・心理的負担を高める対応や提案は行いません。

中立公正な独立性の強みを生かし、幅広い入居者情報を入手。集客戦略などの改善まで踏み込み、仲介会社とともに良質な客付けを行います。

対応エリア ▶ 大阪府全域・兵庫県神戸市・西宮市・芦屋市・三宮市・尼崎市・奈良県奈良市・生駒市

医師・会社経営の
取引オーナー多数!
オーナー様最優先で
サポートします!

資料請求

無料相談

無料見積

お気軽にお問い合わせください。

今なら! ご成約特典として
3カ月管理料無料!

まずは下記までお気軽にご相談ください

お問い合わせは 代表取締役 山部まで

ホームページはこちら



06-4708-3703

株式会社 **JSC**

受付/9:00~18:00 定休日/土曜・日曜・祝日 メールアドレス/jsc@hop.ocn.ne.jp

大阪市中央区備後町4丁目3番6号アスティナ御堂筋本町3階

大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第52巻第6号

発行所
〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX
072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数
安藤嗣彦 6,200部

URL
http://www.jinsenkai.net

キラキラで1年の締めくくり



since 1927 OMC History		
1926 大正15年 1927 昭和 2年	大阪高等医学専門学校設立認可願提出 財団法人大阪高等医学専門学校設置認可 大阪高等医学専門学校開校認可(修業年限5年) 大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可 本館、解剖館、別館、附属病院、臨床講堂竣工 三島病院(附属病院)開院	2003 平成15年 2005 平成17年
1929 昭和 4年 1930 昭和 5年	本館屋上塔に大時計を設置 新講堂と生理学実習室竣工 大阪医科大学設置認可(旧制大学) 大阪医科大学 予科設置	2006 平成18年 2007 平成19年 2009 平成21年
1935 昭和10年 1941 昭和16年 1946 昭和21年	医学部開学認可 附属看護婦学校(新制)開校 学校法人大阪医科大学認可(組織変更による) 学校法人高槻高等学校認可 附属看護婦学校(新制度乙種)設置認可 大阪医科大学設置認可(新制大学)現在に至る 大阪高等医学専門学校廃校	2012 平成24年 2013 平成25年 2014 平成26年 2015 平成27年
1948 昭和23年 1950 昭和25年 1951 昭和26年	学位規程制定認可 大阪医科大学大学院医学研究科設置認可 大阪医科大学進学課程設置認可 京都大学化学研究所跡土地建物と等価交換 講義実習棟竣工 創立50周年記念式典開催	2016 平成28年 2017 平成29年 2018 平成30年
1952 昭和27年	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可 体育館竣工	2021 令和 3年
1956 昭和31年 1959 昭和34年 1965 昭和40年 1968 昭和43年 1975 昭和50年 1977 昭和52年 1978 昭和53年 1979 昭和54年 1982 昭和57年 1990 平成 2年 1994 平成 6年	大阪医科大学附属看護専門学校3年課程(全日制)設置認可 総合研究棟竣工 特定機能病院承認 本館・図書館棟竣工 創立70周年記念式典開催	
1997 平成 9年		

ご支援のお願い

大阪医科大学(現・大阪医科大学)は、私立大学として篤志家によって設立され、卒業生のお力添えをいただきながら、維持・運営され、成長してきた歴史があります。皆さまの温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

要項

募金目的 大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図る

募金目標額 10億円

募集期間 2018年10月～2027年3月

金額 個人 1口1万円、法人 1口10万円

顕彰 個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします

特典 個人10口以上、法人5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック(基本コース)1回分の無料受診券を進呈します。

申込方法

<https://www.omp.ac.jp/donation/index.html>

税制上の優遇措置

学校法人大阪医科大学は特定公益増進法人であり、大阪医科大学に対してお寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。



〔お問い合わせ〕 学校法人大阪医科大学募金推進本部 TEL 072-684-7243

株式会社 **Em Road** Marriage Road

100% 手作りのお世話®

親御様のためのセミナー
～子供の結婚を考える～
お子様のご結婚について
お悩みはございませんか？

無料開催
(資料送付)

山名友子の結婚物語

やがてホロリ

自分のものとなった唯一の縁を抱いて退会される会員さんからは、実に様々な言葉をいただきます。喜びの声、感謝の気持ち、ちょっぴり反省の弁、そして後進へのアドバイス。会員さんの人となりが見え... ➡ 続きはWebで [Em Road 結婚](#)

Marriage Road 結婚

資料無料

・ドクターズ ・エグゼクティブ ・スタンダード 各コース



0120-4122-46

10:00～18:00
水曜定休

大阪本社

〒530-0043 大阪市北区天満3-2-2 エムロードビル3F

Em Roadはここが違います

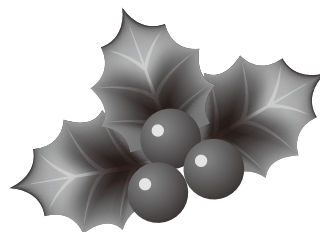
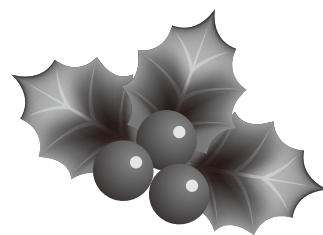
- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 4 自社会員のための構成
- 5 個人情報のパーフェクト・プロテクション

神戸 神戸国際会館22F

京都 オフィス・ワン四條烏丸6F

東京 丸の内トラストタワー20F

目次



年末のご挨拶

P4 仁泉会副理事長 上野 豊先生（学27期）

教授ご就任

P5 森 泰輔先生（学50期）

受賞報告

P6 上原従正先生（学14期）

小畑仁司先生（学33期）

富士原 彰（学13期）

学会報告

P7 第44回日本美容外科学会総会 第142回学術集会のご報告

土井秀明先生（学36期）

P9 第29回乳癌基礎研究会

柴田雅朗先生

評議員近況報告

P10 「愚痴」

丸山俊郎先生（学12期）

P10 「近況報告」

鄭 栄植先生（学42期）

P12 「くろかわ皮フ科の取り組み」

黒川晃夫先生（学43期）

P14 「北摂の膝を守る」

森内宏充先生（学45期）

仁泉ひろば

P15 「一枚の枯葉」

西村 保先生（学4期）

P16 「人生いろいろ 災害いろいろ」

小笠原 博先生（学13期）

P19 「診療所の継承」

大藪 博先生（学22期）

P20 「京都の食事情…インバウンド そして コロナ」

森本博子先生（学24期）

P21 「デジタル トランスフォーメーション」

大西洋一郎先生（学25期）

P21 令和4年度仁泉会学術集会助成申請について

P22 「これからの日中友好—中国とどのようにお付き合いするのか？—」 酒谷 薫先生（学30期）

P23 「若手医師のキャリアを考える」 星賀正明先生（学34期）

P24 縁の下の力持ち QI管理室にお邪魔しました！ 上田英一郎先生インタビュー

P28 会員著書 高松順太先生（学21期）

P29 冊子切抜 南 敏明先生（学36期） 星賀正明先生（学34期）

P30 新聞切抜 森脇真一先生（学35期）

P31 新聞切抜 土井秀明先生（学36期）

P32 新聞切抜 操 裕先生（学45期）

P33 新聞切抜 伊藤ゆり先生

P34 TOPICS

P35 まんが

博多ぼん太く（学31期）

本部だより

P36 会員計報

P37 編集後記

年末のご挨拶

仁泉会副理事長 上野 豊（学27期）

コロナに明け暮れた令和3年も残すところあと僅かとなりました。

仁泉会会員の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

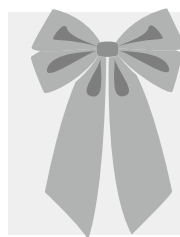
令和2年1月16日に初めて日本国内で認められました新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に日本全国に広がり、第1波～第5波にわたる感染拡大期をもたらしました。その間に、日本全国における感染者数は170万人、死者18000人余り、大阪におきましても感染者数20万人、死者3000人余りと多くの被害をもたらしています。この状況に対し、政府は、4回に渡る緊急事態宣言及び蔓延防止等重点措置発令し、現在は小康状態を保っています。しかし、これで収まったわけではなく、第6波が起る可能性は十分にあります。我々医療従事者は、一般診療に加え、コロナ感染症患者を含めた発熱患者の治療、ワクチン接種等冬に向かって慌ただしい毎日を送ることになります。会員の先生方御自身におかれましても、くれぐれもお体をご自愛くださり、日常の診療に従事していただきますようお願い申し上げます。

この新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、仁泉会の総会は、2年間縮小せざるを得なくなりました。特に、多くの会員の先生方との交流の場でありました総会後の懇親会を中止せざるを得なかったことは、大きな痛手でありました。また、仁泉会にとって重要な行事で

ある各地域の支部総会、クラス会がほとんど開催されませんでした。それにより、会員同士の交流の場がなくなり、同窓会活動に大きく支障を来すこととなりました。

しかし、一方で、明るい話題もあります。わが母校である、大阪医科大学は、大阪薬科大学との法人合併から5年を経過し、完全統合の結果、本年4月をもって、名称を「大阪医科薬科大学」と改めました。この結果、本学は、医学部、看護学部、薬学部を有する総合大学への道を歩み始めました。また、創立100周年記念事業として昨年8月から着工されました新病棟の建設も着々と進行し、令和4年5月にはA病棟が竣工し、同時に大阪府三島救命救急センターが同病棟内に移転いたします。さらに、大阪医科薬科大学統合に伴い新学歌も完成いたしました。

仁泉会におきましても平成30年より、学生会員を制定し、今期で4年目になります。一人でも多くの学生諸君に入会いただき、同窓会としての仁泉会の活動を理解していただきたいと思います。同窓会活動とは、本来卒業生同士の交流の場であると同時に、大学との橋渡しの存在でもあり、卒業生が、母校の発展に何らかの形で協力していく場でもあります。来年こそ一人でも多くの会員の先生方に参加していただき、従来の形で総会が開催できますよう祈念致しまして年末のご挨拶とさせていただきます。



祝・京都府立医科大学産婦人科学教室 教授ご就任！ 森 泰輔先生（学50期）

ご挨拶

森 泰輔

（京都府立医科大学産婦人科学教室教授 学50期）

大阪医科大学仁泉会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、2021年10月1日付で、京都府立医科大学産婦人科学教室（大学院医学研究科女性生涯医科学）第12代教授を拝命しました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

私は2001年に本学卒業後、京都府立医科大学産婦人科教室に入局し、済生会滋賀県病院、国立舞鶴病院、市立福知山市民病院を経て、同大学院に進学いたしました。2年間同大学院で過ごした後、米国ロサンゼルス近郊のBeckman Research Institute, City of Hopeに留学し、乳癌研究に取り組みました。2009年に帰局後は、婦人科疾患におけるエストロゲンおよびその受容体制御メカニズムについて研究を展開してきました。「子宮体癌や子宮内膜症はエストロゲン依存性疾患であることが謳われているのに、乳癌治療で主流とされるGnRHアゴニストやアロマターゼ阻害剤はなぜ効かないのか？」という臨床的疑問から端を発した一連の研究成果により、子宮体癌や子宮内膜症における独自の複雑なエストロゲン伝達制御経路を見出し、その生物学的特性に基づいた新たな治療戦略を確立してきました。なかでも子宮内膜症に対するイソフラボンサプリメントは基礎的研究で効果を見出し、パイロットスタディを経て現在、特定臨床研究を行っています。これらの一貫した独創的な研究内容が評価され、日本産科婦人科学会におけるシンポジウム講演担当者（2020年）や学術奨励賞（2021年）に選出されましたことは、大変光栄なことと感じております。

医学研究の発展のみならず、医療も日進月歩であり、さまざまな情報が一層煩雑化しております。周産期・腫瘍・生殖内分泌・女性ヘルスケアと4つのサブスペシャリティにわたり多様ともいえる産婦人科学の奥行きや深さを、先輩・同僚・後輩から学べる環境を整えることはき



わめて重要であると考えております。心を磨き、他のために尽くすことをそこで学んで欲しい。そして、自分が信頼できる情報を正しく取り込んで、患者がたとえ困難な事態に陥っても自ら解決できる、気概のある医師を一人でも多く育成したいと決意を新たにしております。京都府立医科大学は、来年には創立150年を迎える輝かしい伝統を誇る大学です。伝統は継続的な変革の上で成り立ちます。常に新しい概念や環境を受け入れる柔軟性を持ち、多様性を享受しながら、大きく成長していきたいと思います。引き続き、皆様の絶大なご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

森 泰輔先生ご経歴

2001年 大阪医科大学卒業
2001年 京都府立医科大学産婦人科学教室入局
2002年 済生会滋賀県病院、国立舞鶴病院
2003年 市立福知山市民病院
2005年 京都府立医科大学大学院医学研究科
女性生涯医科学
2007年 Beckman Research Institute, City of Hope
2009年 京都府立医科大学大学院医学研究科
女性生涯医科学 病院助教
2010年 京都府立医科大学大学院医学研究科
女性生涯医科学 助教
2017年 京都府立医科大学大学院医学研究科
女性生涯医科学 講師
2020年 京都府立医科大学大学院医学研究科
女性生涯医科学 准教授
2021年 京都府立医科大学大学院医学研究科
女性生涯医科学 教授



受賞報告

文部科学大臣表彰 上原従正先生（学14期）

令和3年度学校保健及び学校安全表彰において、永年にわたり学校保健活動に尽力されてこられた上原従正先生が文部科学大臣表彰を受けられました。

母校同窓会として慶事でありますので、ここにご報告させていただきます。

先生の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

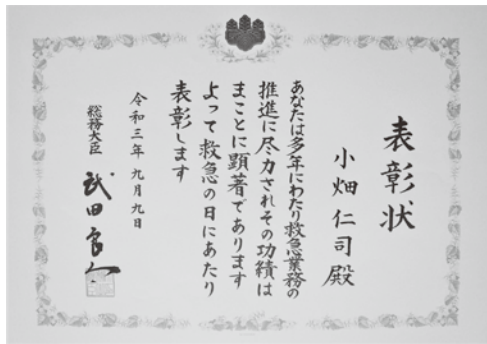
救急功労者総務大臣表彰 小畑仁司先生（学33期）

2021年9月9日、大阪府三島救命救急センター所長小畑仁司氏（学部33：昭和59年卒）が「救急功労者総務大臣表彰」を受賞されました。

この表彰は、日頃から救急業務の推進に貢献し、社会公共の福祉の増進に顕著な功績があった個人および団体に授与されるものです。今年度は、全国で個人12名と1団体が表彰され、大阪府からは小畑氏が選出されました。

本来は、授賞式後、記念写真撮影のため夫婦同伴で皇居に参入するところですが、昨今の諸事情により中止となり、9月30日に高槻市役所において、濱田剛史市長から表彰状が授与されました。

氏は、一貫して臨床医の立場から、救命救急医学、特に脳神経外科の研究に努め、日本救急医学会指導医・評議員として研鑽を積み重ねるとともに、その成果を実践に生かし、最重症および重症救急傷病者の救命救急医療の最前線として、精力的に取り組まれました。



また、地域におけるプレホスピタル・ケアの充実に向けた高度な救急乗務実施体制の確保を図るため、大阪府救急医療高度化推進に関する部会委員や大阪府三島地域メディカルコントロール協議会長を務め、最新の救命救急医療の導入、地域医療活動の推進および円滑かつ的確な救急業務実施に向けた地域救急医療体制の整備を図るなど地域救急医療に大きく貢献されました。

小畑所長の長年の救急医療への実績が認められ、荣誉ある表彰を受賞されましたことをご報告いたします。

文責：富士原 彰（学13期）



受賞・受章の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受賞・受章等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。
FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636
e-mail／jimu@jinsenkai.net

学会報告

第44回日本美容外科学会総会 第142回学術集会のご報告

文責／土井秀明（学36期）



このたび2021年9月30日～10月1日に第44回日本美容外科学会総会・第142回学術集会をグランフロント大阪のナレッジキャピタル コングレコンベンションセンターで開催いたしました。初日は緊急事態宣言が解除されず、さらに猛烈な勢力の台風が日本に近づくという予報の中でのスタートとなりました。終わってみると780余名の美容外科医に参加していただき、コロナ禍にも台風にも負けない活気と熱気にあふれた学会を開催することができました。

本学会は昭和52年1月に発足した日本整容形成外科研究会を母体とし1978年より日本美容外科学会として活動を開始しました。現在は基本診療科の一つであります日本形成外科学会のサブスペシャリティーのトップに位置付けられ、国際美容外科学会（ISAPS）、東洋美容外科学会（OSAPS）の日本支部として国際的にも活動しております。

今回の学術集会のテーマは「美容医学への道」で、サブテーマとして「安心安全な美容医療を求めて」といたしました。美容外科は医療ではないとおっしゃる先生も少なからずおられますが、美容皮膚科や non-invasive な非外科的治療法がプチ整形の名の下に国民の中に浸透し、小学生でも二重の手術を受けたり、90代の方でもシワ取りをしたりする時代となっています。そのような時代ですので、基礎

医学と臨床医学に裏付けられた学問としての美容外科を確立するために教育講演と教育セミナーを中心にプログラムを組みました。

前日の9月29日には、一般の患者さんに向けての美容外科市民公開講座を行いました。スポーツドクターとしても活動されている東京の伊藤史子先生（あやこいとうクリニック院長）、藤本卓也先生（こまちクリニック院長、仁泉会会員学48期）、よしもと興業の美容番長シルクさんを講師に迎え、野町健先生（ヴィヴンシアクリニック院長）の司会で、一般の方に「正しい美容外科の選び方」と「多汗症・腋臭症治療」、「運動により若さを保つ方法」をご講演いただきました。

学術集会初日の9月30日は、招待講演にシンガポールの形成外科医の中でも新進気鋭の WONG Chin-Ho 先生に「Asian Upper Eyelid Surgery」のご講演をお願いいたしました。まぶたというのは欧米人と東洋人では、その解剖学的特性が大きく異なりますので、アジア人の治療を多く手がけている東アジア圏の医師の講演が役立ちます。

関西医科大学第1内科の野村昌作教授が教育講演「術前検査と感染症・止血機能」を行い、その他に5つの教育セミナー（フェイスリフト、レーザー治療、眼瞼の手術、鼻の手術、輪郭形成術）、3つのランチョンセミナー、2つのイブニングセミナー、30演題の一般演題があり、活発なディスカッションが行われました。

緊急事態宣言下のために会場定員の50%の座席しか使用できず、一時的に密となる場面も見られましたが多くの参加者が感染対策をしっかりと行い、スムーズな運営ができました。

最終日の10月1日は、関東に台風が接近した影響で早めに帰京する方がいたことと緊急事態宣言の解除により全ての座席が使用できるようになったため、前日に比べると会場の空席が目立っていましたが、それでも多くの参加者が入り熱気にあふれていました。

特別講演は経営危機に陥った企業の再建をご専門とし、リーガルハイという反町隆史主演のテレビドラマのモデルとなった村松謙一弁護士にお願いしました。コロナ禍で経営難となっている病院や医院も

出てきておりますので、そういった状況に陥らないためにも開業医の多い美容外科学会では経営学の勉強も必要となります。

その他のプログラムとして教育講演は伊藤雄策先生（伊藤歯科医院、大阪）と春岡龍男先生（ワンデスマイルインプラントクリニック、福岡）による「審美歯科と医科歯科の連携」、金子剛先生（国立成育医療研究センター、前形成外科部長）の「社会保険と自費診療・混合診療」、浅井隆教授（獨協医科大学埼玉医療センター、麻酔科）の「オフィス麻酔の呼吸管理」のご講演とシンポジウム2題（安全なPRP療法と合併症の対策、安全を求める豊胸術）、教育セミナー1題（ボツリヌストキシン療法とフィラー・ヒアルロン酸療法）、3つのランチョンセミナー、日本（JSAPS）・韓国（KSAPS）・台湾（TSAPS）の3カ国の美容外科学会によるジョイント・セッション、14演題の一般演題、第3回メソセラピー研究会と盛り沢山の講演がありました。

企業展示では74社106小間のブースが参加し、新しい医療材料やレーザーをはじめとする医療機器が紹介されていました。企業展示会場で予定されて

いた総合懇親会とワインテイスティング・イベントは、残念ながら緊急事態宣言のために行うことはできませんでしたが、「たこ焼き道楽 わなか」に出張していただき、たこ焼きのデモンストレーションを行い、会員一同で舌鼓を打つことができました。今後、コロナ禍が収束し懇親会が開催できるようになることを期待しています。

最近では学術集会や講演会はWEB開催が多く、旧知の先生と顔を合わせる機会もめっきり減りましたので、久しぶりに行った現地開催の学術集会は大いに盛り上がりました。これもひとえに仁泉会のご支援を賜ったためであると感謝しています。末筆ではございますが、学会盛会の御礼を申し上げますとともに、大阪医科大学同窓会である仁泉会の更なるご発展を祈念し、学会報告とさせていただきます。



学会報告

第29回乳癌基礎研究会

文責／会長

大阪医科大学 医学部

生命科学講座

解剖学教室 准教授 柴田雅朗

この度、第29回乳癌基礎研究会の会長を拝命し、2021年8月28日、29日の2日にわたり開催致しました。当初は2020年8月開催の予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックを受け、感染拡大防止の観点から、この夏に延期を決定しました。しかし、新型コロナウイルスは変異株の出現により、従来の感染予防対策では充分でないことが新たに示され、参加者の安全を最優先に考え、ライブ配信でのオンライン開催と致しました。

乳癌基礎研究会は1990年に基礎と臨床領域の学術情報を交換・共有する場として設立されました。これまで多くの臨床、基礎研究の第一線の先生方が参加し、発足以来約30年が経ちました。本研究会の会員数は100余名と小規模ですが、全国から幅広い領域の乳癌研究を牽引している研究者が集い、乳癌に関する研究成果を報告し、その成果は国立国会図書館にも蔵書されている学術誌「乳癌基礎研究」に論文として掲載され、その新しい知見を広く世間に公開しています。また、新たな研究の芽を養う場として、若手研究者の育成にも尽力を注いでおります。

特別講演では、基礎研究領域からは、岐阜大学連合創薬医療情報研究科の赤尾幸博先生より「Ras変異がんに対するマイクロRNA創薬」について、東京大学大学院農学生命科学研究科の日下部守昭先生より「基礎研究から臨床応用への展開：細胞外基質テネascin Cの生物機能研究を通して」について、川崎医科大学乳腺甲状腺外科学の紅林淳一先生より「乳癌培養細胞を用いたTranslational Research」について、それぞれ発癌機序とその治療に迫るお話を頂戴しました。臨床領域からは、大阪医科大学医学部乳腺・内分泌外科学の岩本充彦先生より「進化する乳癌診療－増え続ける乳癌に挑む－」について、兵庫医科大学乳

腺・内分泌外科学の三好康雄先生より「エリブリンの治療効果のバイオマーカー探索と耐性克服の戦略」について、それぞれ最新の臨床データをご紹介頂き、示唆に富むご講演を拝聴させて頂きました。

当初、私は不慣れなオンラインでの学術会議の運営・開催に大変な不安を感じておりました。しかし、実際に始めてみると、発表演題に対する活発な質疑応答が幅広い年齢層の先生方からなされ、時間的制約で次の演題に移った場合でも、チャットを利用して意見交換がなされておりました。オンライン学術会議においても、十分な双方向性コミュニケーションが可能で、むしろ従来の対面式の学会より若い先生が気軽に質問できる環境が作られ、これは大きな利点であると感じました。ただ開催前よりオンラインでは臨場感は得られないのではと危惧しており、2日間とも休憩時間にはプロの演奏家によるライブ演奏を開催しました（一日目は津軽三味線、二日目は二胡）。これが好評で、ライブでの高揚感が学術会議にも和やかな効果をもたらし、企画して大正解でありました。

お陰様で盛会のうちに本研究会を終えることが出来ました。これもひとえに仁泉会会員の皆様のご支援の賜物であると心から感謝申し上げます。末筆となりましたが、仁泉会のますますのご発展と会員皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、ご報告とさせていただきます。

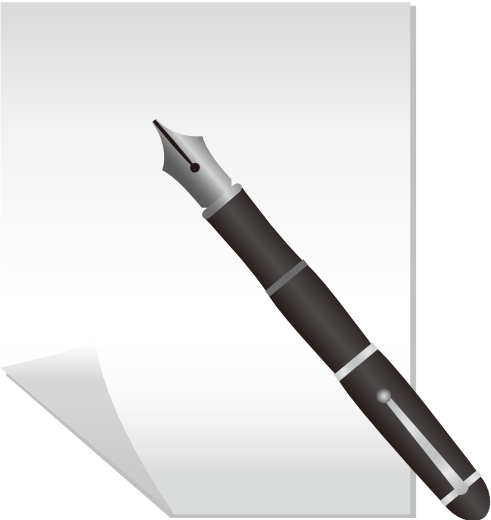


評議員近況報告

愚痴

文責／丸山俊郎（学12期）

最近といっても、もう4～5年前から愚痴が多くなった。Frauは勿論、テレビのニュース、解説、バラエティー等々つまらんと愚痴を言い、傍らに居る Frau に時にうるさいと言われる。愚痴は辞書によればサンスクリット語のモーフmohaがあてられ莫迦（のちに馬鹿）の語源とされている。さておき、若い時は愚痴も周囲からは仕事等の不満と聞かれることもあるので腹のなかにおさめていたが、今は Frau だけなので愚痴も彼女だけが聞く。愚痴は一人で呟いてもなにか物足りないのでつい彼女に向かって言うことになる。ぐちぐち、ぐじゃぐじゃも愚痴、愚痴からきたこともよくわかる。政治、経済、社会、医療等の様々な不信、不振、不安も一種の愚痴で、欲求不満。逆にこれが励みになることもあり、進歩の原動力ともなるのかも知れない。しかし、この年では妻や、政治、経済に言う愚痴も単なる愚痴で、何の進歩にも繋がらないか。今この文章を書いているのも愚痴である。



評議員近況報告

近況報告

文責／鄭 栄植（学42期）

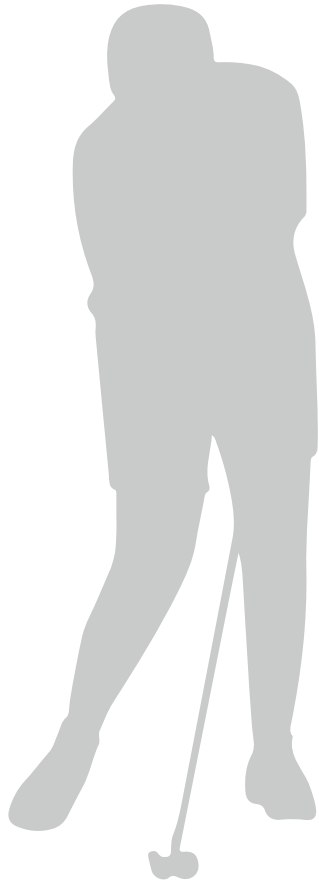
拝啓 師走の候、仁泉会の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。わたくしは現在、母校のある高槻市、北摂総合病院の門前で、2009年から鄭クリニックと有料老人ホームココリを開業し運営させて頂いております平成5年卒業の鄭 栄植（ちょん よんし）と申します。ついこの間卒業したばかりと思っておりましたが、あっという間に30年近くの月日が流れ去ってしまいました。同期からも医学部教授がちらほら登場してきておりますが、教授となって頑張っておられる姿と学生時代の姿を重ねると、偶には文春が喜びそうなスクープも思い出されて、一人感慨に耽っております。さて、皆さんもいろいろと考えさせられたコロナ問題、ついにアフターコロナ・ウィズコロナ時代とまで言われるように人々の暮らしが大きく変わってきたように思います。わたしもまだまだアナログな時代の人間でしたが、緊急事態宣言下での老人ホームの面会制限で、親が子の顔を忘れ、笑顔を失ってゆく状況や、毎週の抗原検査や行動規制で職員に疲労が蓄積し、仕事のモチベーションを維持できない状況に直面し、施設入居者さんと家族との面会、職員の教育や就業状態の管理を何とかしようと、オンラインミーティングシステムやラインワークス、業務のAI管理、セキュリティ管理等のシステムをどんどん導入していくようになってしまいました。今の時代、ドラえもんも想像できなかったようなことが一般常識になってきており、気が付けばあれもAIこれもAI、いつのまにか自分の仕事は職員の苦情整理くらいになってしまいました。7年前から脱炭素に配慮し乗り継いできた完全電動自動車テスラモデルSも自動運転などの機能が、寝ている間にインターネット経由でどんどん進化して、いつか自分の意志と関係なく操縦されてしまうのではないかとの恐怖を感じるレベルになってまいりました。

使わなければどんどん衰えて行くのが人間の身体、学生時代にサッカー部で西医体や全医体で優勝するまで鍛えぬいて蓄えてきた体力貯金も、今ではほぼ底をついてまいりました。昔、すれ違った女性の顔の皴の数まで数えていた鋭い眼力も、老眼に拍車がかかり、今ではすれ違ったのが男性だったのか女性だったのかもわからなくなってしまいました。30歳を過ぎた頃から頑張りだしたゴルフも、中学3年生の息子に最新のクラブを買ってやったせいか、なかなか勝てなくなって、挙句、スイングがかっこ悪いとかコースマネジメントがおかしいなど、いろいろ注意される始末。クラブのせいにするのも癪に障るので、10年以上前から使っているゴルフクラブを振りかざし、何の罪もないゴルフボールに八つ当たり。



年金をいつからもらうかといった話題も周りで出てきて、そろそろ自分も退く日が近いことは肌で感じざるを得ない状態となってしまいました。しかし、まだまだ感じる口惜しさと、もうすぐ1歳になる孫の花嫁姿が見たいとの思いから、まだまだくたばってたまるか、もっともっと頑張ってやるぞと、気合を入れている今日この頃でございます。これまで本当にいろいろな方々にお世話になってきており、これからも今まで以上にご迷惑をおかけするにもかかわらず、日々の業務に忙殺され、皆様への感謝の気持ちを伝えることが出来ずに今日に至ったことお許し下さればと思います。そして、還暦めがけて突っ走っている学部42期同期の皆様、ちらほらと病気を患われた方の情報が入ってきております。これから病気にならないために何をしなくてはいけないか、美味しいものを良く噛んで食べてそして美味しいお酒を飲んでよく笑うこと、大腿の筋肉を鍛えること、即ちつべこべ言わずにスクワットを自ら実践すること、そして医療人

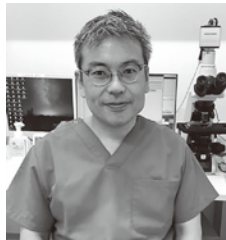
として、最後まで患者さんの訴えに耳を傾ける姿勢は貫き通せるよう、残りの人生まだまだ頑張っていきましょう。



評議員近況報告

くろかわ皮膚科の取り組み

文責／黒川晃夫（学43期）

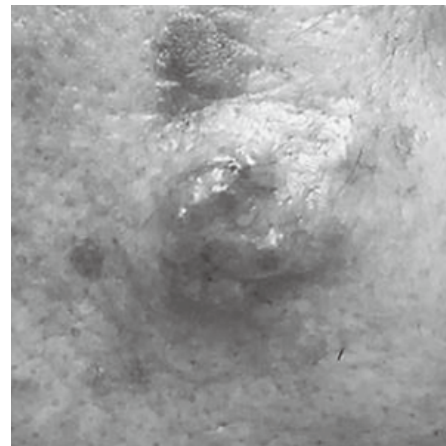


2020年4月、阪急神戸線武庫之荘駅南改札口を出て徒歩3分のところで、「くろかわ皮膚科」を開院しました。当クリニックでは、患者さんへの親切かつ丁寧な対応を心がけています。

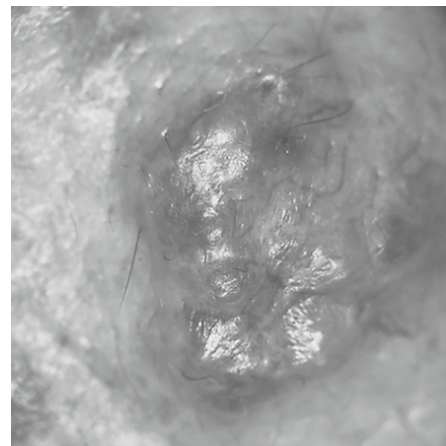
また、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性痤瘡、乾癬、円形脱毛症、熱傷など多岐にわたる皮膚疾患を扱い、適切かつ患者さんのニーズに応じた医療の提供をモットーとしています。重症アトピー性皮膚炎にデュピルマブ（デュピクセント®）注射薬を導入し、今のところ重篤な副作用はなく、良好な成績が得られています。2020年12月、関節リウマチに承認適応となっている経口ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬バリシチニブ（オルミエント®）錠が、外用治療で効果不十分な中等症から重症アトピー性皮膚炎に対し適応追加となりました。続いて2021年8月、関節リウマチ、関節症性乾癬に適応の経口JAK阻害薬ウパダシチニブ（リンヴォック®）錠が、既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎に対し適応追加となりました。リンヴォックは、12歳以上かつ30kg以上の小児にも処方が可能です。今後、重症アトピー性皮膚炎に対し、処方の選択肢を広げ、より精度の高い治療を目指すべく尽力を注いでまいります。

日常診療の中で、しばしば診断がつかない症例に出くわします。私自身、皮膚生検や血液検査などで可能な限り診断または仮診断を下し、紹介すべきか否かを見極めるよう努めています。ここで、70歳代男性の右頬骨部にできた症例を紹介します。赤褐色調の隆起性病変で、淡黒色調の斑や蛇行した血管がみられます（図）。高齢者に好発する基底細胞癌ではなからうか、それにしては、表面平滑で透明感があり、別の疾患の可能性もあるな、と思いながら黒色斑のところから皮膚生検を行いました。病理診断は、思いもつかなかった「粘液癌（皮膚原発もしくは転移性）」でした。組織をみた瞬間、透明感を呈する理由に気づ

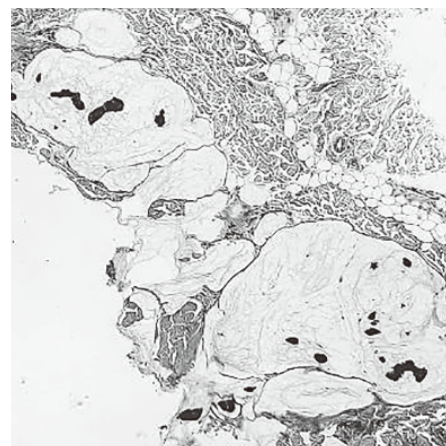
図 70歳代男性の右頬骨部に生じた粘液癌



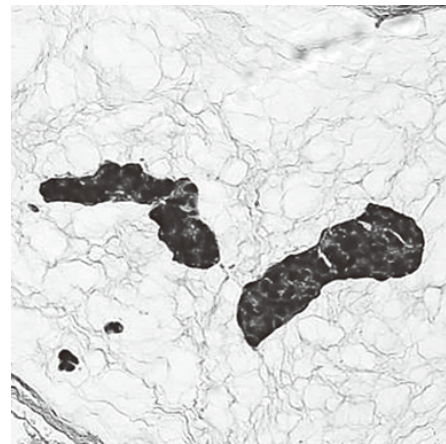
臨床所見



ダーモスコピー所見



病理組織学的所見（HE染色×40倍）



病理組織学的所見（HE染色×200倍）



かされました。結局、全切除および全身検索が必要と考え、本人がご希望される病院へ紹介することとなりました。コロナ禍でクリニックから高槻まで少々遠いため、患者さんを大阪医科薬科大学病院へ紹介しづらい状況にあります。今後、貴院への紹介をご希望される患者さんがおられましたら、快くお引き受け頂ければ幸甚です。

最近、患者さんから、遅くまで有難うございますといった感謝の言葉や、頑張って下さいといった励ましの言葉を数多く頂戴します。その反面、これだけ多くの薬を出しといて説明がなされていないとか、時間予約を取ったにもかかわらず、時間通りに診察されないなどの批判の声も少なからず耳にします。感謝や励ましのメッセージは、診察する際のよき活力となります。しかしながら、批判のメッセージこそ、クリニックの質を向上させるよき手がかりとなります。最近では、批判的な声があれば、各々の事例を改善させるには何が必要かをスタッフとともに検討し合い、よりよいクリニックにしていくよう邁進していく所存です。

開業してはや1年半が経ちましたが、まだまだ至らぬことだらけです。今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。最後に、執筆の機会を与えて下さいました、大阪医科大学仁泉会事務局の皆様、理事長 安藤嗣彦先生に深謝致します。



くろかわ皮膚科

〒661-0033 兵庫県尼崎市南武庫之荘1丁目12-1
松弥サウスモール 2F

Tel.06-6439-7233 Fax.06-6439-7234

E-mail <https://kurokawa-skin.com/>

評議員近況報告

「北摂の膝を守る」

文責／森内宏充（学45期）

学45期（平成8年卒業）の森内宏充と申します。

小学校低学年から野球をはじめ、中学、高校時代も野球部に所属していました。当時、高校球児は丸刈りであったため（高校生になると周りはパーマをあてたりしてうらやましく思えました）、女性との交流もほぼなく野球に没頭していました。高校3年の夏の大阪府予選では1回線負けに終わり、みんなで涙し野球はもう卒業だと考え医学部を目指して受験勉強にはげんでいました。浪人1年目で無事大阪医大に入学することができ、バイトに遊びにといろいろ楽しんでいこうと考えていましたが、やはり野球が好きだったので、入学当日いつのまにか野球部に入部していました。西医体優勝を目指して野球中心の大学生活が始まったのです。大学2回生の時は西医体準優勝、5回生の時は3位までいきましたが、優勝はできませんでした。しかし5回生の時に関西選手権で関西学院大学に勝利し全国大会に出場できたのは良い思い出です。たくさんのすばらしい先輩、同級生、後輩に恵まれすばらしい学生生活を送ることができ、いまでも大きな財産となっております。

さて、大学卒業後はスポーツ障害などに興味があり母校大阪医大整形外科教室に入局することとなりました。入局後、最初の担当患者さまは変形性膝関節症の症例であり、2例目も膝蓋大腿関節症の患者さまでした。その影響か関連病院で研修していくうちに膝関節に興味を持つようになり、平成14年膝関節外科医をめざして大学院に帰学することとなりました。大学院時代は膝関節の研究、手術など多くを勉強し、平成26年からは第一東和会病院で勤務しております。

第一東和会病院では私の師でもあります藤田晃史医師とともに同26年7月に「北摂の膝を守る」というスローガンのもと膝スポーツ関節鏡センターを開設しました。主には膝スポーツ障害であります前十字靱帯再建術や半月板手術、変形性膝関節症に対する骨切り術や人工関節手術を行っております。近隣の先生方に多くの患者さまを紹介していただいたおかげで症例数も増え、平成29年2月5日付け読売新聞に病院の実力、スポーツ外

傷の欄で掲載していただくこともできました。

今後も患者さまによりよい医療が提供できるようまだまだ努力していかなければいけないと同時に若き膝関節外科医も育てなければと考えております。

最後に読売新聞に掲載されたものを添付させていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。



2017年2月5日 読売新聞掲載

仁泉ひろば

jinsen-park

「一枚の枯葉」

文責／西村 保（学4期）

ある年の夏、一人の高令者が大病院に入院してきた。その病室のすぐ横に一本の大きな木が聳えていて、青々とした葉が茂っていた。

その高令者の病状は重く、主治医の話では「あと二、三ヶ月でしょう」とのことであった。

やがて秋となり、葉はだんだんと枯れてきて、とうとう全部枯葉となった。ある夜台風がきて、その枯葉の殆どが落ちてしまったが、その高令者の病室の窓近くの枝には未だ幾らかの枯葉が残っていた。病室の建物が風除けになっていたからである。その後雨が降り、とうとう最後の一枚になった。

高令者はその枯葉を毎日見ながら何時とはなしに、あの枯葉が落ちると私も死ぬだろうと思い始めていた。そんなある夜、また雨が降り、今日こそは落ちているだろうと窓を見たら、未だ枯葉は残っていた。

それを見た高令者は何となく気力が湧いてきた。

これを切っ掛けとして高令者の病状が好転し、年末に退院することとなった。

その日も枯葉は退院を祝福するごとくヒラヒラと揺らいでいた。

看護師は知っていた。それは高令者が可愛がっていた孫がこのことを知り病院の許可を得て深夜にその木によじ上り、枯葉に油を塗り、更に枯葉の茎と木の枝とを糸できつく縛っていたのである。

ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニ

ケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思います。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。

下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

●支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告

●「仁泉ひろば」のコーナー

●研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）

●随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技

●紹介したい店、場所、物など

●本誌に取り上げて欲しい話題

字数には制限は設けません。葉書1枚、便箋1枚でも結構です。

●広告に関して

会員自身が出される広告は現在100字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

（内容により有料の場合があります）

事務局編集係

仁泉ひろば

jinsen-park

「人生いろいろ 災害いろいろ」

文責／小笠原 博（学13期）

昭和39年、丁度、東京オリンピックが開催された年に卒業しました。

インターンを経て、大学病院入局。その後、福井県の公立病院、静岡県の日赤病院等に勤務。又、縁があって、当時、貧困国の南米ボリビアにジャイカ（国際協力事業団）より派遣され、約3年間当地での医療に従事して来ました。

私は、昭和14年9月に東京で生まれました。5歳の時、大東亜戦争（太平洋戦争）の末期で、東京大空襲が始まり、青森県に「疎開」、終戦を迎えました。戦直後、東京は焼け野原となり、食事も手に入りにくい環境にあった為、私1人親と離され青森県の片田舎にある親戚に預けられました。地元の小学校で3年間過ごしたあと、4年生から東京に戻り、その後高校卒業まで生活しておりました。高校3年生の時、父親が亡くなり、これで大学は無理と思っていた頃、京都の親戚から、こちらに来て大学に入れたら面倒を見てやると声がかかり関西に住むことになった経緯があります。

私が静岡県の日赤病院に勤めていた時、子どもの頃、青森県で世話になった家の息子さんが片田舎の町長になり、私の所に頻回に来られ、地元には医者が居なくて困っている、何とか来てくれと再三くどかれ、とうとう断り切れず開院する事になってしまいました。

この様ないきさつで現在、小さな病院を続ける事になった訳です。前置きが長くなりましたが、最近、全国的に地震が多発しており、秋（10月）には東京地域を中心に震度5強が発生、電車等も止まりタクシー乗り場の行列、又、大勢の人々が群れを作って歩く様子が映し出されました。この光景を見ていて、今から10年余り前の「東日本大震災」当時の様子を思い出したので少し触れてみたいと思います。

平成23年3月11日金曜日、所用があり東京行きの新幹線に乗っておりました。14時40分頃、福島駅を通過、トンネル内に入ったと間もなく、急ブレーキがかかり、スピードダウンしました。何かと思った瞬間、

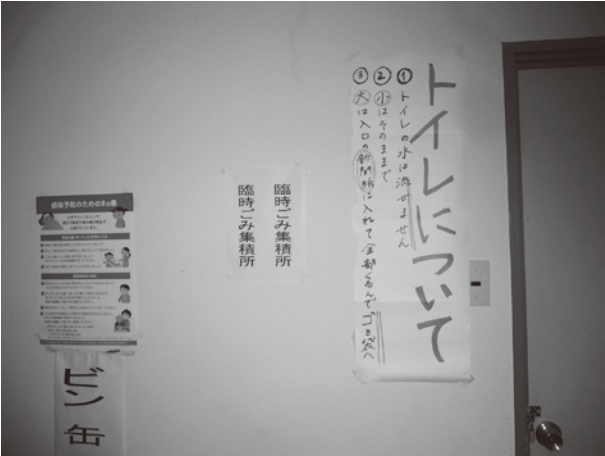
車体が上下に激しく持ち上げられ、同時に車内は真っ暗になりました。一瞬地震かなとも思いましたが、あまりの激しさに車体の故障なのか？等々頭をよぎっている中、停車しました。

約16時間程車内に閉じ込められ、翌日10時30分頃救出され、本来3月11日16時08分東京着の予定が、3月13日午前0時30分頃、東京駅から品川まで大行列を作って歩き、やっとの思いでホテルに辿り着きました。

私とこの地震との関わりはここから始まりました。3月の地震から約1ヵ月後、全日本病院協会と青森県医師会より依頼があり、5月に医療支援チームを結成。宮城県気仙沼市と岩手県大槌町にいく事になりました。

チームは医師1名、看護師2名、理学療法士1名、事務1名の計5名で、大小6カ所の避難所と高校の仮設診療所での診療にあたりました。

気仙沼本吉地区の避難所では、いずれも仕切りがほとんどなくプライバシーを論ずる以前の環境で、水も出ず、トイレには「ここは水が出ません。小はそのまま、大は新聞紙に包んでゴミ袋に捨てて下さい」と赤いマジックで書かれた張り紙がありました。



トイレの水は流せません
小はそのまま大は新聞紙に入れてゴミ箱へ

疾病は、呼吸器感染症とその繰り返しが多く、これは避難所が寒く、又、誰か風邪をひくと次々感染しても無理のない環境でした。その他、高血圧症、糖尿病等、以前から薬を服用されていた方が沢山居られ、その薬が手に入らず、体調がすぐれない方々等、被災地ならではの状態でありました。

日中の巡回診療では、避難所には寝たきりの老人以外、ほとんど人が居られない所もあり、聞いてみたところ国が日当を払う仕組みで避難所の方々に地元の瓦礫を片付ける仕事をしてもらっているとの事。多くの人達はお金がない為、多少、体調が悪くても出かけている

との事でした。又、老人ホームを巡回した時、（ここは高台にあり、すぐ下まで津波は来ましたが、施設そのものには被害なし）一緒について回った50歳代女性の介護の方が、「実は私も家が流され、ここに居たから無事だったんです。でも帰る所がないですよ」と話され、多くの職員が同じような環境のようで「ご家族はどうされましたか？」とはとても聞けるような雰囲気ではありませんでした。

車で移動中、海岸沿いを走っていると住宅の流された跡地に小さな花が植えられ海風に揺れていました。写真を撮るつもりで車を降りると、そばに軽自動車が止まっており、中の60歳位の男性が話しかけてきました。「ここに私の家があったんだけど、家内は行方不明でまだ見つかっていない。今日は花を植えて来たんだ。これが家内なんだけど……」とポケットから写真を見せられ、その表情には「もう戻ってくる事はないだろう……でも、ひょっとしたら……」との想いが表れており、思わず涙がこぼれ、何と答えていいのかわからず、唯々頷くしか術がありませんでした。



海風に揺れる花……。
60歳位の男性が話しかけてきた。
「家があった場所に花を植えて来た。
家内はまだ見つかっていない……。」

大槌町の場合、高校内に仮設診療所を設け、ここには体育館に約240名、96世帯の方々が居られました。この避難所は一世帯ずつ、かなり高い仕切りで囲まれ、プライバシーは他に比べて守られていましたが、狭い空間を囲んでおり、風通しが悪く、又、寒い為、窓も開けられずムッとした環境にありました。しかし、ここは水が出ており、洗面、トイレは気仙沼より恵まれておりました。

我々は教室に寝泊まり・自炊したので、毎日手分けして食べ物の買い出しに出かけました。津波に押し流され、瓦礫の山となった市街地跡地を眺め、改めて大自然の力を思い知らされました。今回の震災は、平穏な毎日に甘んじて当然のように1日1日を過ごしていた

我々に原点に戻って考える様知らしめたのではないかとさえ思われました。人・車もろもろ流されましたが、長年築き上げて来た地域のコミュニティーや文化も併せて流れ去ってしまったことになるのだろうか。この現実を目の当たりにして、自分に何が出来るのだろうか、何か役に立っているのだろうか…等々、無力感に襲われました。



大槌町では、避難所の高校の物理教室にて
自炊・寝泊まりした。



津波に押し流された瓦礫の山。
大自然の力を思い知らされた。

今回被災された方々の医療支援を目的として参加させていただいたのですが、災害のものすごさ、多くの方々がご家族、友人を失い、その後避難所での不自由な生活を強いられておられる状態を目の当たりにして、「ショック」以外の言葉が見つからない思いでした。

宮城県気仙沼市

(平成23年3月10日現在)

人 口 73,363人

世 帯 数 26,601世帯

(平成23年6月8日現在)

死 者 973人

不 明 者 511人

避難所数 58施設

避 難 者 3,142人

全壊住宅 8,383棟

岩手県大槌町

(平成23年3月1日現在)

人 口 15,239人

世帯数約 5,800世帯

(平成23年6月13日現在)

死 者 778人

不 明 者 827人

避難所数 34施設

避 難 者 1,964人

全壊、半壊住宅 3,677棟

この震災後も全国各地で地震、水害等度々発生しており、人類が発展する為と称して、自然破壊を積み重ねた結果の災害とも云われております。

これからの世代に、我々の生活環境改善と称し、自然破壊をして来たつけを、これから国を支える若い方々に払わせる事のないよう環境保全に力を入れていかなければならないと考えております。

現在、コロナと経済が争点となっているようですが、これからは自然災害と経済、これも決して忘れてはならないと思います。

ところで私共のチームは医療支援をしておりました際、ある避難所で食事ほとんどとれず、衰弱した方がおられ、病院よりカロリー飲料を送って差し上げた方が居られました。後日この方よりお便りがありました。「前略。私避難所で皆さまにお世話になった者です。送っていただいたエンシュアを1日おきに飲んで、体調も徐々に良くなって来ております。やっと仮設に入所出来まし

た。6人家族で3部屋はきついし、いろいろ悩みもありますが、慣れるしかないでしょう。何とか前向きに頑張りたいと思っています…etc」

この手紙をきっかけに今困っている事、必要なものは何か等、「今あれば助かる」の情報をいただき、この地区の仮設にお住いの100世帯の方々に応援させていただく事になりました。

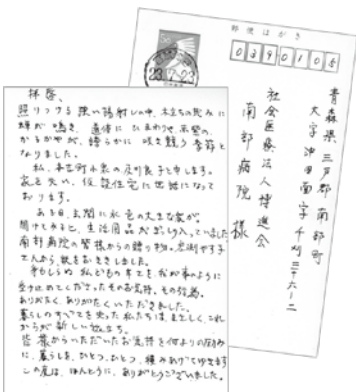


支援物資 袋詰めの様子

<お礼のお手紙と手づくりタオルを頂戴しました>

私、家を失い仮設住宅に世話になっております。ある日、玄関に大きな袋が。あけてみると、生活用品がぎっしり入っていました。南部病院の皆様からの贈り物。ほかの方から訳をお聞きしました。身も知らぬ私どものつらさを、我が事のように受け止めて下さったそのお気持ち、その行為。ありがたく、ありがたくいただきました。暮らしのすべてを失った私たちは、まさしく、これからが新しい旅立ち。

皆様からいただいたお気持ちを何よりの励みに、暮らしをひとつ、ひとつ、積み上げてゆきます。このたびは、ありがとうございました。



実際のお手紙



ゾウさんの手づくりタオル

仁 泉 ひ ろ ば

jinsen-park

「診療所の継承」

文責／大藪 博（学22期）

私の父親は、昭和21年に大枝診療所を開院しました。当時私の生まれた地区（大枝）は無医村で、父は昭和17年に軍医として応召され、復員後すぐに開業しました。この頃は回虫による腹痛の患者さんが多く、昼夜をとわず診療しておりました。

その後父は車で15分程の所（桧原）に多くの患者さんがおられ、往診をしておりましたが、昭和29年に桧原分院を開設しました。自宅の診療所と合わせて一人で二か所での診療を続けていました。このような父の姿を長い間見てきましたので、私も父の仕事を手伝おうと医師を志しました。

父は元気で大病もせず診療を続けていましたが高

齢になりましたので、私が平成3年に一つの診療所を継承しまして、しばらく父と一緒に診療を続けていました。その後父が80歳の時に脳梗塞に罹患しまして診療ができなくなり、私が二か所での診療を25年続けてきました。

しかし私も高齢になりまして二か所での診療が困難になり、桧原分院を息子に継承することになりました。息子は整形外科医でリハビリ棟の建設、レントゲン装置が必要で、また息子の嫁が総合内科医、糖尿病専門医で二人で整形外科、内科の診療をすることになり、診療所の大幅な改装をしなければならなくなりました。

昨年12月から診療所の横にリハビリ棟の建設に着工しまして、本年3月に完成しました。続いて既存の診療所の改装にかかりました。コロナ禍のなかでの建設、改装工事でしたが、8月に完成しまして診療を続けています。

新しく開業しました二人ですので、保険診療の規則等を指導し、見守りながら私も本院での診療を続けたいと思っています。

広告募集！

仁泉会ニュースでは、広告の募集もしております。

ご出稿のタイミングや料金などは事務局までお問い合わせください。

TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636

e-mail／jimu@jinsenkai.net

ご開業の際は
編集部にお知らせください

新規でご開業された会員諸先生方がおられましたら

事務局までお知らせください。（自薦・他薦は問いません）

仁泉会事務局 TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636

e-mail／jimu@jinsenkai.net

仁 泉 ひ ろ ば

jinsen-park

京都の食事情…

インバウンド そして コロナ

文責／森本博子（学 24 期）

京都人は伝統を大切にしながら結構新しモノ好きです。一人当たりのパンの消費量が全国主要都市の中で日本一、というのは有名ですが、牛肉の消費量も日本一だそうです。一世帯当たりの牛肉の消費支出が年間38018円、消費数量も9776g、共に日本一だそうです。

京都で牛肉を味わう歴史は古く、1310年の国内最古の和牛に関する書物に丹波牛を紹介する記述があるほか、明治の初めにはすき焼き店が開業しています。京都では肉といえば牛肉をいう文化が根付いているという土地柄があるのでしょう。

和食のイメージの強い京都ですが、ほかにもコーヒーが全国一位、ビール、クロッカも上位の位置を占め、意外と洋食系が目立ちます。

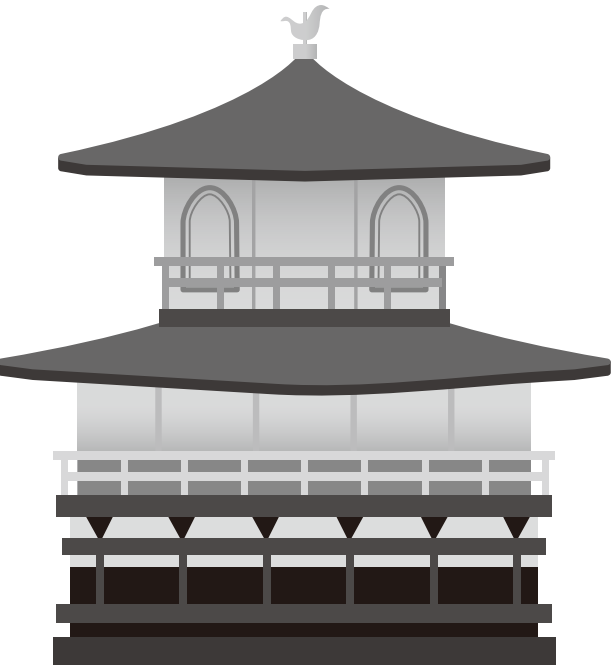
そして、エンゲル係数ですが、それも京都は日本一だということです。大阪の食道楽、京都の着道楽と言われますが、京都人は食べ物にもお金を使うようです。

コロナが流行する前は京都は観光客であふれかえり、特に中国からの観光客を中心としたインバウンドの影響ははなはだしく、地下鉄や市バスは大きなトランクをひいた客で満員となり、地元の乗客が乗れないという事態を引き起こしていました。

京都の台所といわれる「錦市場」は江戸時代から「錦」に行けば食材が全てそろうといわれてきたものですが、観光客が押し寄せ、まるでテーマパークのようになっていました。いまは落ち着きを取り戻していますがインバウンドが去った「錦」は以前とは全く違う通りになっていました。昔ながらの朝採ってきたばかりの新鮮な野菜が山積みになっている八百屋さんはなくなり、珍しい食材を扱っている乾物屋さんや魚屋さんも数が少なくなりました。代わってみやげものやや店頭で食べられるようなてんぷらやさんとかお菓子の店が取って代わっています。

また、コロナで変わったことといえば、テイクアウトをする店が増えたことでしょうか。一流の料理屋さんもお弁当の配達をしたりネットで販売することを始めています。手軽なお値段でお店でしか味わえなかったお料理が楽しめるのは嬉しい事です。

昔から持ち帰りのみ（テイクアウト専門）のお寿司のお店があります。知る人ぞ知る、というお店でしたがマスコミに紹介され有名になっています。お寿司はお稲荷さんときゅうり巻き、香々巻きだけ、いわゆる助六寿司で、いたってシンプルです。お稲荷さんのお揚げは油抜きがじゅうぶんにされ二日間しっかりと煮込まれていて上品な甘さで一口で食べられるようなサイズです。口元を汚さずに食べられるので都をどりなどのときの部屋見舞いに重宝されています。そのほか水屋見舞い、法事などにも使われています。お店は中村屋、といいます。電話での事前予約注文だけです。



仁 泉 ひ ろ ば

jinsen-park

「デジタル トランスフォーメーション」

文責／大西洋一郎（学 25 期）

湯川、朝永、江崎と今年 9 0 歳の真鍋と物理畑では日本人は才能があった。1 1 名ももらっているのである。

近年、自動車整備士はなり手がなくなっている。政治家は日本を発展させようとはしなかった。

T 型フォードがバカ売れたのはラインを組んで普通人が組み立てをできるようにして、高嶺の花だった自動車を普通人が買えるようにした。フォードは自動車工を高給で雇った。普通人の購買力を増やしたのである。トヨタはリバースエンジニアリングとジャストインタイムでの物流コントロール、作り込

みという技術方法で大戦後地歩を築き上げてきた。3 万点の部品を組み上げていくのであるから、できるまでに下請けメーカーとの共同作り込みが製造では最重要であったのである。

日本人はこの点得意であった。世界を作り込みで席捲した。中国に進出しても、技術を盗まれにくかったのは、こう言った背景がある。が、中国は戦略を変えた。電気自動車である。1 万点部品でできる。電子事業であるからおてのものの技術窃盗がしやすい。その前に作り込みをデジタルトランスフォーメーションで製造の最適配置をデジタルで置き換えてトヨタに対抗して勝とうとしている。ドイツとアメリカがこの面では強い。そう言う人材の養成もすで行っている。自動車整備士のなり手がない日本とは雲泥の差なのである。一流棋士が藤井聡太に総ナメにされる、未来が二重写しになってみえる。

医療でもそう言うことは考えられる。

令和 4 年度仁泉会学術集会助成申請について

令和 4 年度中に会員が主催する全国規模の学会への助成申請を募集しております。
希望される先生におかれましては、申請書を令和 4 年 1 月 3 1 日までに仁泉会事務局にご提出
いただきますようお願い申し上げます。

申請書は、仁泉会事務局までご依頼いただくか、仁泉会ホームページの「申請書ダウンロード」より入手頂けます。

仁泉会事務局

jimu@jinsenkai.net

tel:072-682-6166,fax:072-682-6636

仁泉会ホームページ

大阪医科大学仁泉会

検索

仁泉ひろば

jinsen-park

これからの日中友好 —中国とどのように お付き合いするのか?—

文責／東京大学大学院新領域創成科学研究科
酒谷 薫（学30期）

来年2022年は日中国交正常化50周年に当たることをご存知でしょうか？

1972年9月に日中共同声明を発表して、日本国と中華人民共和国が国交を結びました。日本側の代表は田中角栄総理大臣、中国側の代表は周恩来首相でした。共同声明調印の前夜、毛沢東は、「もう喧嘩は済みましたか？」と、笑顔で二人に語ったという逸話は有名です。あれから50年が経とうとしています。日中関係は大きく変化しました。中国経済は飛躍的な発展を遂げ、日本を追い越してGDP世界第2位の経済大国になったのです。このような大国、中国とどのようにお付き合いすればよいのでしょうか？

じつは、私は北京の中日友好医院（日本では日中友好病院）に国際協力機構（JICA）の長期派遣専門家として勤務していました。この病院は日本のODA（政府開発援助）により1984年に開設されました。ベッド数は1315床あり、当時の最高レベルの医療機関として中国人民の健康を守り、若手医師や看護師を日本に派遣し医学教育でも大きな役割を果たしてきました。私は1995年から2000年まで脳神経外科と脳科学の専門家として勤務していましたが、その当時の北京は現在の様子とは全く異なっていました。道路には自転車があふれ、秋には北京秋天と呼ばれる真っ蒼に晴れ渡る空が広がっていたのです。しかし、それから20年余り経ち、中国はアメリカに次ぐ経済大国、軍事大国として大きく変貌しました。尖閣諸島問題、香港・台湾問題、ウイグル人権問題など中国政府の強引なやり方に世界から非難の目が向けられています。このため、中国に対してアレルギー反応を示す日本人は多いのではないのでしょうか？

しかし、見落としてはいけないのは中国の科学技術の発展です。学術研究競争（注目論文数）では、材料科学や化学、工学など5分野で米国を抜き首位に立ち（2017～19年）、産業に直結する人工

知能、ロボット、スーパーコンピュータ、量子通信、核融合（人工太陽）、宇宙開発などの様々な分野で中国は世界をリードしているのです。このような中国と昔のように発展途上国に対する援助をベースとした日中友好はなりたちません。では、米国に従い中国とは交流しないほうが良いのでしょうか？

仕事から工学系の先生と話をする機会が多いのですが、「中国にはもうかなわない」という寂しい声が聞こえます。しかし、工学や基礎科学以外の分野に目を向けると、日本が中国よりも優れている分野は少なくありません。その一つは、臨床医学、看護や介護の分野なのです。人に対するきめ細やかなサービスを基盤とした健康分野は日本の優れた分野の一つであり、また中国から交流のラブコールがある分野の一つなのです。

現在、東京大学は来年の日中国交回復50周年記念に向けて、日中友好病院をはじめ中国の大学と共同で記念シンポジウムを開催する準備を進めています。テーマは、「伝統と先端の融合」です。医療の分野では東洋医学などの伝統医学と人工知能などを統合した新しい医療の創出などが企画されています。これがきっかけとなり、中国とウィンウィンの関係が保たれる医療・看護・介護分野の国際協力事業が生まれることを期待しています。仁泉会の先生方にも是非ともご参加して頂ければと思います。



筆者が勤務していた中国北京市の日中友好病院

仁泉ひろば

jinsen-park

「若手医師のキャリアを考える」

文責／星賀正明
（仁泉会理事 母校内科学Ⅲ教室教授 学34期）



2018年から新たな専門医制度が始まりました。大きく変わったのが、カリキュラム制がプログラム制になりました。従来のカリキュラム制では、学会認定専門医研修施設であればど

こに所属していても必要な症例や手技をカリキュラムとして経験すれば認められていました。しかし、プログラム制では、あらかじめ基幹病院を中心に連携施設が決められており、それ以外の研修は認められません。専門医研修には、教育資源として症例数と指導医数が重要であり、プログラム制になると自ずと研修を受ける医師は教育資源が豊富な都市部を希望します。この新制度導入により、若い医師の地域偏在が進むのは必然でした。

この医師の地域偏在に地方の首長が強い危機感を感じ、導入されたのがシーリングというプログラム定員を超えた調整です。まずは大都市をもつ5つの都府県（東京、大阪、神奈川、愛知、福岡）にシーリングが設置されました。例えば、大阪府の内科ですと、プログラムが50以上あります。それらのプログラムの定員を全て足すと400人を超えるのですが、そこで大阪府全体で250人までとする、というのがシーリングです。新専門医制度には、19（内科、外科、小児科、皮膚科、精神科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリ科、総合診療科）の領域があります。初年度にシーリングを超える応募があったのは、東京都のわずかに2領域ぐらいで、しかも1-2名のオーバーに止まりました。どの様な調整が図られたのか不思議でしたが、大きな混乱もなくほぼシーリング内に収まった事を覚えています。しかし、その1-2名のオーバーは首長らから大きな反発を招き、次年度の東京都のシーリングは前年度よりも一律5%削減という強い措置が取られました。

更に、2019年6月には、医師調査から算出したとされる医師充足率が厚労省から発表されました。この発表を受けて、専門医制度のシーリングの厳しさが増します。必要医師数に達し、医師充足地域と判定されると、シーリングの対象になります。近畿では大阪府、京都府、和歌山県がシーリング対象地域になり、兵庫県、奈良県、滋賀県は非シーリング地域です。驚くべき事に、西日本で医師充足率が0.80以下で医師過疎地域に認定されたのは、山口県と宮崎県のみでした。

シーリングの厳しさは年々増しています。加えて、シーリング地域でのプログラムには、地域貢献という非シーリング地域での研修が要求される様になってきました。当院プログラムですと、専門医研修の3年間のうち、期間の20%以上は大阪府、京都府以外での研修が必要になります。この制度の導入により、本学の各医局で長年培ってきた大阪や京都府内の関連病院に、今まで通りに若手医師を派遣する事が難しくなってきました。今後、更にシーリング指定の地域が広がったり、また今は一部に限定されている医師過疎地域への派遣が広く義務化される可能性もあります。最も懸念するのは、その様な状況で次世代を担う医師の専門研修の質が担保できるか、という事です。この様な厳しい状況で、私たちが最も頼りにしているのが仁泉会の力です。現在、兵庫県、奈良県、滋賀県などにおいて、仁泉会の先生方の力をお借りして、顔の見える形で若手の専門医研修をお任せしています。これから、ますます全国の仁泉会会員の先生方との連携を深めていきたいと思っております。どうぞ、この問題に関心を持っていただき、母校の後輩達の育成に力をお貸しください。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



＼縁の下の力持ち／

QI_{クオリティインディケーター}管理室にお邪魔しました！

上田英一郎先生インタビュー

インタビュアー：仁泉会事務局

仁泉会事務局(以下事務局)：本日はお忙しい中、インタビューのお時間をいただきありがとうございます。上田先生は本年から仁泉会の理事にご就任いただき、失礼ながら私はご経歴を拝見して初めて QI 管理室という部署を知りました。そこで、ご就任を機にお話をお伺いさせていただければとお願いさせていただきました。本日はよろしくお願いいたします。

上田先生：よろしくお願いいたします。

QI 管理室とは？

事務局：さっそくですが QI 管理室ではどのような役割、お仕事をされているのでしょうか。

上田先生：QI 管理室はクオリティインディケーターを活用した医療の質向上(QI 活動)を促進しています。臨床指標を算出するだけでは、医療の質の向上に繋がるものではなく、データに基づき他施設との比較検討や自院での経時的分析を行い、課題を抽出し継続的な改善に活用することが重要だと考え業務を行っています。

事務局：データを分析して課題を見つけ改善を促すことを目的としているということでしょうか。

上田先生：それでは、管理室の組織全体の位置づけと設立の経緯からお話させていただきます。その方がこの後の話がわかりやすいですね。大阪医科大学病院は、この4月から大阪医科大学病院(以下本院)になりましたが、QI 管理室というものがいきなり出来たわけではありません。まず、QI 管理室は以前あった医療管理室が母体となり設立されました。医療管理室は「医療安全に配慮した医療の質向上並びに適切な保険診療の普及のための教育を行うこと」を目的に平成 28 年に設立されましたが、QI 管理室の目的も同じです。

事務局：病院の医療安全と質向上、教育と幅広いですね。

上田先生：そうですが、それらを QI 管理室だけで行っているわけではありません。機構図(図1)を見ていただくとわかりやすいので、これを見ながら説明をします。現在、本院では特定機能病院として高度な医療と安全を提供するために、病院長直轄の医療総管理部という部門が設立されています。医療総管理部は、医療安全推進室(旧医療安全対策室)、QI 管理室(旧医療管理室)、診療情報管理室、感染対策室の4つの室で構成されています。2019 年に病院の組織改編が行われ誕生しました。根尾昌志副院長が初代部長となられ、私は副部長として任にあたっています。また、2020 年 4 月からは勝間田敬弘副院長が部長となっています。

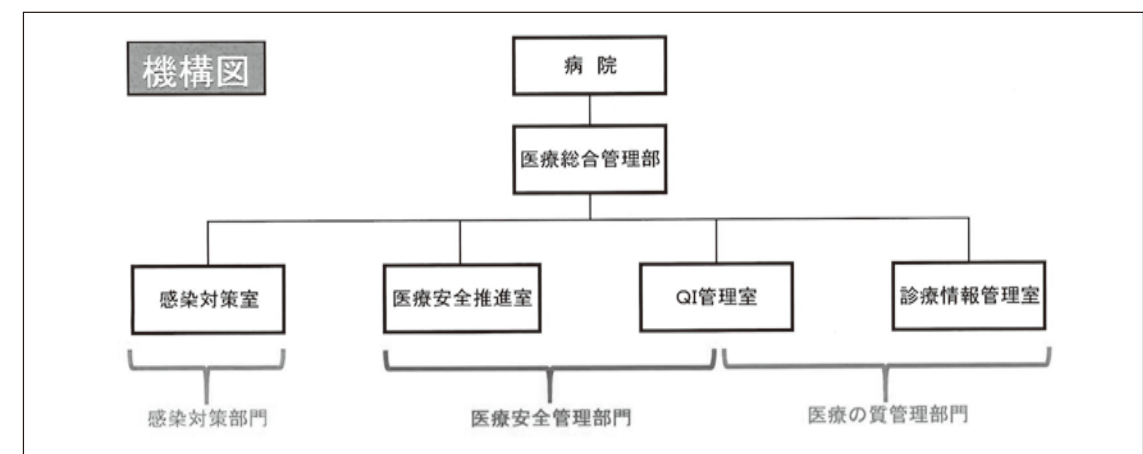


図1：機構図

事務局：上田先生が副部長、QI 管理室室長、診療情報管理室室長をお勤めになられていますね。

上田先生：はい。この前までは医療安全推進室の室長も兼務していました。

事務局：ものすごく大変ですね。

上田先生：各位にご協力をいただきながらやっています(笑)総合的に病院の医療の質や安全の向上、感染対策などを行うには組織横断的に行っていくことがどうしても必要となりますので立ち上げて間もない今はそのような形です。

事務局：このような仕組みは全国的に珍しいのでしょうか？

上田先生：医療総管理部に改編された動機として、医療安全を含めた医療管理体制整備のガバナンス強化が医療法の改正によって求められるようになった事が挙げられます。2000 年初頭から 2014 年の間に発生した医療事故により、2015 年に特定機能病院に対する集中検査が行われました。その後、医療法施行規則の一部が改正され特定機能病院の承認要件の見直し、特定機能病院のガバナンス強化等を目的に医療法が改正されました。これまで任意であった監査体制も外部監査委員会の設置が義務づけられるなどしました。2021 年には病院機能評価をはじめとする第三者評価の受審が義務化されました。

事務局：全国の特定機能病院も同じ体制になっているということですね。

上田先生：概ねそうですが、本院のように医師を専属で配置している所はそう多くはありません。

新型コロナウイルスの対応

事務局：避けて通れない話題ですが新型コロナウイルスの対応も医療総管理部が主導されたのでしょうか？

上田先生：感染対策室が患者対応や情報収集を行い、具体的な感染対策を考え、医療安全推進室が院内での広報方法策定や各部門の調整を行いました。QI 管理室はデータ収集や分析をしながら情報をフィードバックしていきました。それらを医療総管理部として病院全体に流していくという形をとっています。

各部署へのチェックリスト

事務局：全体のお話から QI 管理室でのお仕事にお話を戻していただきたいのですが、QI 管理室での現在の取り組みをお聞きしてもいいでしょうか。

上田先生：QI(クオリティインディケーター)とは最初にお話しした医療の過程や結果から課題や改善点を見つけ出して医療の質の向上に繋げることを目的としています。その為に 240 以上の指標のチェックリストを作り、各部門から 1 ヶ月 1 回の頻度で報告してもらっています。その結果は各課にフィードバックすることで改善をお願いしています。また 2 か月に1回開催される、病院機能評価推進本部会議において改善点などを報告し対応策を協議しています。

事務局：ものすごい作業量だと思うのですが。

上田先生：そのために各部署にクオリティマネー

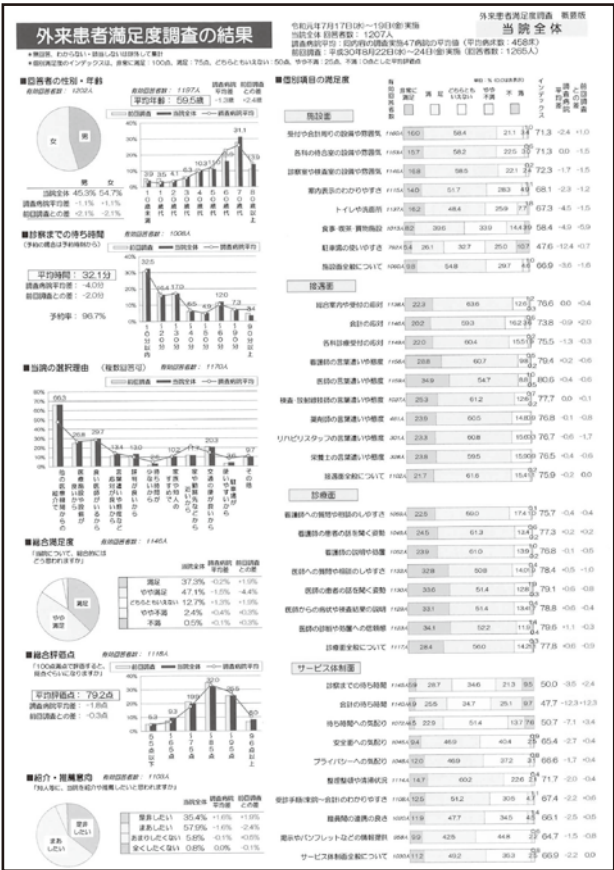
ジャーの設置を進めています。クオリティマネジャーの育成も QI 管理室の重要な仕事になります。

事務局：ホームページで患者満足度などを公表しているのも QI 管理室で行われているのですか？

上田先生：はい。本院は日本病院会が行っている QI プロジェクトに参加しており、患者サービス課と連携して定期的に結果を公表しています。近年は医療技術の高度化・複雑化が進んでいます。医療の質への関心は社会的にも高まっておりますので情報の公開が求められています。

事務局：患者さんの満足度は高い結果となっていますが、逆に患者さんからの不満で最も多いものはなんでしょうか。

上田先生：会計の待ち時間が長いというご意見が最も多く、駐車場について、面会スペースなどが続きます。



外来患者満足度の調査結果

「施設面」「接遇面」「診療面」「サービス体制面」において、これそれぞれ個別に詳細な満足度を調査し可視化。

事務局：設備面での不満が多いですね。

上田先生：はい。現在建設が進んでいる新病院本館の稼働がはじまれば改善されるはずです。駐車場はどうでしょうか...しばらく工事も続きますのでこちらはすぐには難しいでしょう。ハード面については、経費的なことなど病院経営に関わって来ますのですぐに改善というわけにはいかないのが難しい所です。一方でソフト面の医師や看護師の患者さんに対する接遇などは研修会を開催するなどして改善をお願いしています。

事務局：そちらも先生が研修を担当されるのですか？

上田先生：私は難治性のアトピー性皮膚炎の治療を専門としています。この病気の治療には患者さんに心身両面からアプローチする必要があります。言葉にすると簡単ですが普通の会話をしていても、攻撃されたと感じる患者さんもおられたり、患者さんの感情の引きずられる治療者側の心理状態などもあります。手前味噌で恐縮ですが『医薬の門』という雑誌にこの事をシリーズで掲載してもらったこともあります。とても好評でした。そのような経験が活かしています。

事務局：なるほど。ありがとうございます。診療もありながら現在の QI 管理室の室長も務めておられるわけですが、こちらもご専門としておられたのでしょうか？

上田先生：私は一時期、厚生労働省近畿厚生局に在籍していた事があり、医療 G メンとして保険医療機関の指導や監査を行っていたのですが、退官した後、母校に声をかけてもらって今に至っています。

事務局：医療 G メンのお話をもっと聞きたくなりました。

上田先生：そちらはまた次の機会をお願いします。

事務局：ここまでのお話をお聞きして、先生のお仕事
が病院全体に及ぶことがよくわかりましたがご苦労な
どあったのではないのでしょうか？

上田先生：いえ、そのような事は幸いにしてありません。各診療科の先生やスタッフは大変協力的で感謝しています。

今後の展望について・・・

事務局：今後の展望などをお聞きしてもいいでしょうか。

上田先生：QI 管理室の室長としての展望としては、現在、各診療科・部署にクオリティマネージャーを設置していますが、クオリティマネージャーの先生方には、各診療科・部署における QI 活動の推進役をお願いしています。既にいくつかの診療科では、独自に QI 活動を実施しているところもあり、今後、病院全体としてボトムアップの出来る体制を整備していく予定です。コミュニケーションエラーをなくし、部署間の風通しを良くし、顔の見える関係づくりを進めていきたいと思っています。

QI活動の対象は、医療の質向上だけではなく、医療安全、感染管理、患者サービス、診療記録、医療環境整備、教育研修、職員満足、システム管理等、項目が多岐にわたります。これらの質を職員一丸となって向上させる活動の中心として、今後も活動を拡大し、地域の中核病院としての役割を果たすだけでなく、病院経営の盤石化に貢献していきたいと考えています。

また、現在、科研費を取得して、神戸大学の松尾貴巳教授と共同で医療組織の業務管理の研究を行っています。これまでの統一的な評価や標準化の考えから脱却し、医師や診療科、部門の個別性を考慮したマネジメントモデルの構築を目指しています。また、機械

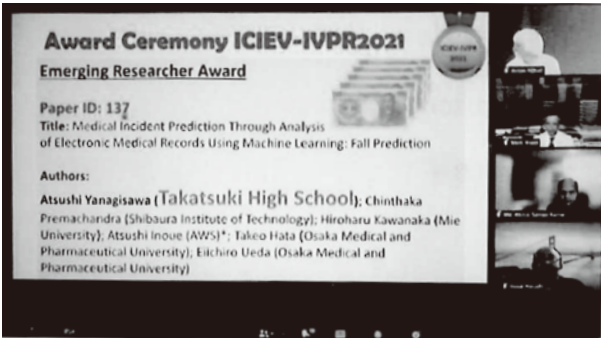


うえだ えいいちろう

上田 英一郎先生

大阪医科薬科大学病院医療総管理部副部長
QI 管理室室長
診療情報管理室室長
医療管理学教授

【専門】 社会医学系専門医(医療管理学)
皮膚科専門医,皮膚心身医学



共同研究で高槻高校の2年生の柳澤君の受賞

事務局：最後に仁泉会の先生方へ一言お願いいたします。

上田先生：指導や監査について、ご相談があればお力になれると思いますのでよろしくお願いいたします。

会 員 著 書

「甲状腺レジェンドの先生方とそのご指導
に支えられた私の半生」第63回日本甲状腺学会学術集会での
「ザ・レジェンド」講演を改正補足高松内科クリニック
高松 順太

ご紹介

安藤嗣彦（学20期）

先日、学21期の高松順太先生より、思いがけずDVDが送られてきました。

先生は私の1年後輩ですが、同じ神戸市出身でもあり、学生時代より親しく付き合っております。因みに先生は学生時代より軽音楽部に在籍し、現在でも名の知れたミュージシャンです。卒業後は第一内科に入局し、甲状腺疾患一筋に診療研究に携わってこられ、甲状腺疾患で有名な神戸の隈病院でも診療をされました。

高松先生は、母校の第一内科助教授を6年間務められたあと、JR高槻駅近くの診療所で甲状腺に特化した診療を続けておられます。その間、仁泉会の理事の任務も果たされました。

事務局に貸出用DVDがございます。
ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。



冊 子 切 抜

新連載

新型コロナで
早期治療を逃さないために大阪医科薬科大学病院
病院長 南敏明さん

皆さん、近頃、体調はいかがですか？

新型コロナウイルスの感染拡大前は、定期的に「がん検診」などの健康診断を受けたり、体調に変化があれば診療所・病院を受診したりしていたと思います。

医療現場にいる私は、最近特に、症状が明らかに進行してしまった人が急増していると感じます。一方、一部報道機関の調査によると、全国のがん拠点病院の80%でがん手術件数が減少しているとされます。

これは、がんになる人が減少したのではなく、検診控え・受診控えで、自覚症状がないか、少ない「早期がん」を見つける機会が失われ、進行がんになって初めて病院を受診するという危機的状況を物語っています。

「新型コロナで〇〇を見逃していませんか」。この視点をテーマに、今号から6回にわたり、本コラムで、市民の皆さんと、健康に生きるために今必要な気付きを共有させていただきます。

血管の病気を
見逃していませんか大阪医科薬科大学病院
循環器内科 星賀正明さん

血管の病気は、心筋梗塞をはじめとした命をおびやかす病気を招きます。皆さんが、特定健診（メタボ健診）や、高血圧治療を受けるのも、この血管の病気を防ぐためです。

血管は全身にあります。中でも心臓に血を送る冠動脈が重要です。冠動脈が狭くなると狭心症、完全に詰まってしまうと心筋梗塞を起こします。胸の真ん中が拳ぐらいの範囲で押さえつけられる時、症状が落ち着いても油断はできません。新型コロナの感染を恐れ、受診をためらっている場合ではありません。ましてや痛みで冷や汗を伴う場合はすぐに病院に行ってください。

また、忘れてはならないのは、下半身に血を送る動脈の病です。歩くとき足や臀部（でんぶ）が痛くなり、立ち止まると痛みは和らぎます。外出を控えていると症状が出にくいのですが、受診が遅れ重症になると、足の切断にまで至る危険があります。

血管の病気は、健診や早めの受診を控えると、重症になるまで気が付かず、命をおびやかすくらい悪くなってしまうかもしれません。当病院では現在、治療数が極端に減少する一方、重症の割合が高くなっています。健康状態に不安がある人や、しばらく健診を受けていない人は早めに医療機関を受診しましょう。

※左ページに市が行う特定健診、がん検診などの集団健（検）診日程を掲載

「たかつき DAYS（広報たかつき）令和3年10月号」に

大阪医科薬科大学病院 病院長 南 敏明先生（学36期）、循環器内科教授 星賀正明先生（学34期）の記事が掲載されました。

新聞切抜

会員企業の職場接種始まる



岐阜商工会議所で進む会員企業のワクチンの職場接種＝岐阜市神田町で

若い世代中心

「小さな子どもが二人いるので、早くワクチンを打ちたかった。職場接種はありがたい」。岐阜市神田町の岐阜商議所大ホールで、一回目の接種を終えた垂井町のパート従業員の女性（26）は笑顔を見せた。

商議所は国のワクチン供給のめどが立ったことを受け、八月二十六日に専用サイトで予約を受け付けると、開始から五分で千七百人の予約枠が埋まった。接種は今日五日に始め、十月十五日までに全員分の二回の接種を終える。

職場接種には「操健康クリニック」（岐阜市藪田南）が協力。十日も医師二人と看護師七人がスムーズに接種を進めていた。操院長は「ワクチンの副反応などの不安に丁寧に答えていきたい」と述べ、商議所の森健二専務理事は「コロナ禍で苦しむ会員企業のお役に立てれば」と話した。

中日新聞 2021年9月11日抜粋

岐阜商議所 国のワクチン供給めど立ちやうと

当院職員は、岐阜商工会議所の皆様や近畿日本ツーリスト岐阜支店のスタッフの皆様と協力、ONE TEAMとなって、商工会議所が運営されている会員向け新型コロナウイルスワクチン職域接種に出務しております。

当初7月末から2,000人以上の規模で企画された職域接種でしたが、ワクチン供給の遅延や供給量の削減のため、9月4日～10月15日までの計10日間、定員1,700名、接種回数3,400回が最終目標となっております。

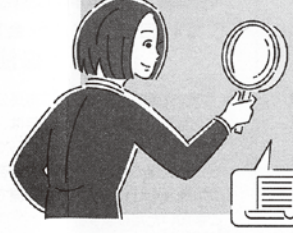
ワクチンについては一定の副作用報告はあるものの、世の中に真偽不明の流言がある中において、勇気を出して予防接種に参加し、社会の安定に貢献されようとしておられるみなさまの御期待に沿うべく、接種に関する不安を解消する問診、安全な接種と接種後の健康観察、有害事象に対する最大限の備えをして取り組んでおります。

文責／操 裕（学45期）

新聞切抜

第2055号 (1963年7月8日第三郵便物認可) 大阪保険医新聞 2021年10月5日 (毎月5、15、25日発行) (8)

正しく扱い味方につける! 「統計」のミカタ



大阪医科大学 研究支援センター 医療統計室長

伊藤 ゆり

第2回

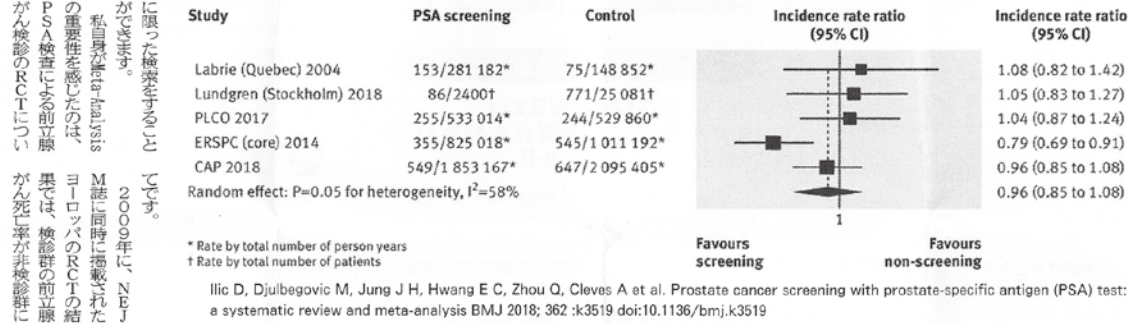
システマティックレビュー・メタアナリシスの活用

前回より引き続き、本シリーズで、今回は「正しい情報に基づいた診療をするための情報源」について、「紹介」します。

皆さんが診療や治療を行う際に、参考にされるのが「診療ガイドライン」だと思います。多くの疾患に関する診療ガイドラインが出版されていますが、すべてが最新で、かつ、信頼性が高いものばかりではありません。ガイドラインが、最新の知見に基づいて作成されているかどうか、信頼性が高いかどうか、を判断するために、システマティックレビューやメタアナリシスという方法があります。

システマティックレビューとは、特定の疾患に関する診療や治療について、複数の研究の結果を統合し、客観的に評価する方法です。メタアナリシスとは、システマティックレビューの結果をさらに統合し、より正確な結果を得る方法です。

システマティックレビューやメタアナリシスの結果は、診療ガイドラインの作成に活用されます。また、臨床試験の結果を評価する際にも活用されます。



〈いとう ゆり〉

大阪医科大学研究支援センター医療統計室長として、学内外の研究の統計的支援を行う。専門分野はがん疫学・保健医療統計。公的統計を用いた記述疫学研究により、がん対策や健康格差に関する研究に従事。近著に健康格差を見る化したThe Atlas of Health Inequalities in Japan (Springer 2019)、がんの格差について分担執筆したHealth in Japan (Oxford University Press 2020)。趣味は釣り、食べ歩き。屋内完全禁煙の飲食店応援サイト「ケムラン」を運営。

2021年10月5日付け大阪保険医新聞に掲載されました大阪医科大学研究支援センター医療統計室長・伊藤ゆり先生の記事を、前田壮二郎先生(学33期)にご紹介いただきました。

ぎふ健康づくり応援プロジェクト 2021 ～健康経営のすすめ～



健康経営とは、従業員の健康づくりをサポートすることにより企業価値の向上が期待できること。健康経営を推進するためには、健康経営の第一歩は、健康診断です。1977年の健康診断法改正で、健康診断が義務づけられました。健康診断は、従業員の健康状態を確認し、病気の早期発見・予防に役立ちます。また、健康診断の結果に基づいて、従業員の健康づくりを支援することができます。

健康経営とは、従業員の健康づくりをサポートすることにより企業価値の向上が期待できること。健康経営を推進するためには、健康経営の第一歩は、健康診断です。1977年の健康診断法改正で、健康診断が義務づけられました。健康診断は、従業員の健康状態を確認し、病気の早期発見・予防に役立ちます。また、健康診断の結果に基づいて、従業員の健康づくりを支援することができます。

健康経営とは、従業員の健康づくりをサポートすることにより企業価値の向上が期待できること。健康経営を推進するためには、健康経営の第一歩は、健康診断です。1977年の健康診断法改正で、健康診断が義務づけられました。健康診断は、従業員の健康状態を確認し、病気の早期発見・予防に役立ちます。また、健康診断の結果に基づいて、従業員の健康づくりを支援することができます。

従業員の健康状態を把握しよう 操 裕氏



健康経営の第一歩は、健康診断

健康経営とは、従業員の健康づくりをサポートすることにより企業価値の向上が期待できること。健康経営を推進するためには、健康経営の第一歩は、健康診断です。1977年の健康診断法改正で、健康診断が義務づけられました。健康診断は、従業員の健康状態を確認し、病気の早期発見・予防に役立ちます。また、健康診断の結果に基づいて、従業員の健康づくりを支援することができます。

TOPICS

2021年度医師臨床研修マッチング最終結果において大阪医科薬科大学のマッチ率は100%と発表されました。

大学本院人気の二極化進む、マッチ率100%は14大学

2021年度医師臨床研修マッチング最終結果

2022年4月からの初期臨床研修先を決める2021年度医師臨床研修マッチングの最終結果が10月28日に発表され、m3.com編集部が大学病院本院ごとに集計したところ、募集定員に対するマッチ者数の割合（マッチ率）が100%となったのは81大学中、14大学だった。2020年度は11大学、2019年度は10大学と比べると微増。大学病院本院で研修する医師は合計2695人と2020年度の2796人から101人減少、12年連続で減少し、過去最低を更新した。マッチ者全体(8958人)に占める割合は30.1%(前年比1.4ポイント減)となった。

分析対象は、防衛医科大学校を除く81大学の本院。マッチ率が90%台は15大学(2020年度18大学)、80%台は10大学(同5大学)、70%台は7大学(同8大学)60%台は5大学(同9大学)、50%台は5大学(同11大学)、50%未満は25大学(同18大学)。100%の大学が3大学増える一方で、50%台以下の大学も7大学増と、2極化が進んでいる。

最も多くのマッチ者を集めたのはマッチ率100%の東京大学で105人。100%の東京医科歯科大学が94人、100%の京都大学が76人で続き、この3大学は10月1日発表の「中間公表」では1位希望人数が1位、4位、3位だった(『東大、2年連続1位に—2021年度マッチング中間』を参照)。いずれも中間公表の1位希望人数から最終マッチ者数を増やした。

自大学出身者がマッチ者数に占める割合が100%だったのは高知大学(21人)、鳥取大学(15人)、島根大学(7人)、弘前大学(4人)の4大学。2020年度は山梨大学、旭川医科大学、金沢医科大学などの6大学だった。卒業生が出身地で研修する自治医科大学と一期生の卒業生をまだ輩出していない国際医療福祉大学を除き、30%未満は北海道大学(29.4%)、神戸大学(25.9%)、名古屋市立大学(25.0%)、順天堂大学(24.4%)、慶応義塾大学(22.0%)、横浜市立大学(17.8%)、東京大学(15.2%)、東京慈恵会医科大学(14.3%)の8大学だった。

2020年度医師臨床研修マッチング最終結果で公表された『大学病院における自大学出身者比率』から、大学病院本院のみを「定員充足率」が高い順にランキング。同率の場合は「マッチ者」数が多い施設を上位に記載している。

順位 (年)					施設名	募集 定員 (人)	マッチ 者数 (人)	定員 充足率	自大学 出身者数 割合
2021	2020	2019	2018	2017					
1	12	26	1	20	東京大学医学部附属病院	105	105	100%	15.2%
1	1	14	1	1	東京医科歯科大学病院	94	94	100%	56.4%
1	16	1	1	1	京都大学医学部附属病院	76	76	100%	39.5%
1	29	1	1	1	京都府立医科大学附属病院	63	63	100%	50.8%
1	1	1	21	14	大阪医科薬科大学病院	55	55	100%	30.9%
1	32	1	19	1	奈良県立医科大学附属病院	54	54	100%	81.5%
1	1	40	34	1	東海大学医学部付属病院	46	46	100%	91.3%
1	1	1	1	1	関西医科大学附属病院	46	46	100%	69.6%
1	36	24	23	13	聖マリアンナ医科大学病院	45	45	100%	84.4%
1	26	30	47	49	川崎医科大学附属病院	39	39	100%	97.4%
1	1	1	1	1	昭和大学病院	36	36	100%	44.4%
1	21	1	66	37	東京慈恵会医科大学附属病院	35	35	100%	14.3%
1	1	1	22	43	藤田医科大学病院	32	32	100%	90.6%
1	1	36	37	70	産業医科大学病院	11	11	100%	45.5%

2021年10月28日 m3.com配信記事より引用

まんが52

博多ぼん太く (学31期)

怖がる

あったね



本部だより

会員訃報

次の会員が亡くなりました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医15期 岡田栄三先生

令和3年9月10日急性心不全の為に逝去（98歳）。
昭和20年卒。

卒業後、昭和20年4月に陸軍軍医候補生として陸軍医学校に入隊され、同9月に終戦により復員後、10月に母校第一内科に入局されました。昭和26年8月より京都市にて内科をご開業になり、平成24年3月末に89歳で閉院されるまで、地域医療に貢献されました。
ご遺族 長女 悦子様

高医20期 山本宰啓先生

令和3年7月8日心不全の為に逝去（92歳）。
昭和26年卒。
卒業後、神戸大学医学部耳鼻咽喉科教室に入局されました。大阪府阿倍野区にて「山本耳鼻咽喉科」をご開業になり、約50年間のながきに亘り地域医療の為に尽くされました。
ご遺族 長女 丸川恭子様（学32）

高医21期 八幡雄将先生

平成20年4月3日心不全の為に逝去（79歳）。
昭和27年卒。
大阪府済生会中津病院外科、阪急電鉄（株）診療所にてご勤務になり、地域医療に尽力されました。
ご遺族 長男 諭様

学部5期 日下泰宏先生

令和3年9月29日急性呼吸不全の為に逝去（90歳）。
昭和31年卒。
卒業後、徳島大学医学部に勤務されました。昭和40年3月に退職の後同年4月～徳島市民病院（産科婦人科）昭和41年4月～阿南共栄病院（産科婦人科）でのご勤務を経て、昭和44年7月鳴門市にて日下産科婦

人科医院を開業されました。平成17年8月には同所に歯科を開業、日下歯科婦人科医院として地域医療に尽力されました。
ご遺族 妻 洋子様 長男 淳様

学部9期 青山顕太郎先生

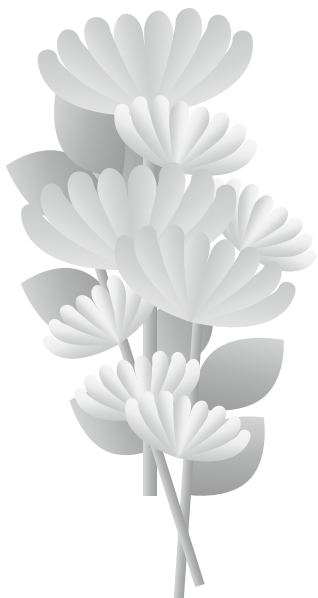
令和3年7月15日逝去。昭和35年卒。
「青山君は神戸市で産婦人科を開業されておりました。学生時代から朗らかで、真面目で、且つ緻密な性格の人でした。壮年期になり、持病の運動療法の為『徒歩びワ湖一周』を計画され、休み毎に小刻みに歩かれて、これを完遂なさいました。このお話には級友一同驚嘆したものでした。」
学9期評議員 大隈義彦先生より

学部9期 伊藤朗喜先生

令和3年9月11日心不全の為に逝去（87歳）。
昭和35年卒。
尼崎市にて眼科をご開業になり、地域医療に携わっておられました。
ご遺族 長男 淳様

学部9期 簗和田武次先生

令和3年6月21日急性腎不全及び循環不全の為に逝去（89歳）。昭和35年卒。
京都市中京区にて内科を開業され、地域医療に携わっておられました。
ご遺族 甥 青野知之様



編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和3年度 10,000円

令和2年度 10,000円

令和元年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

編集後記

今年も残すところわずかになり、仁泉会ニュースも今号が本年最終の発行です。昨年に引き続き、今年もコロナ感染症一色であったように思います。特に4月からはワクチン接種が本格化し、仁泉会諸兄弟も様々に貢献されたことと存じます。

さて、今回の記事はエッセイが多いなと気づかれた方もおられるかも知れません。以前にも愚痴をこぼしたように、支部会や同窓会の記事が激減したため、役員や評議員の先生方に無理をお願いして、ご投稿いただきました。世界情勢から食の話までバラエティに富んだお話が集ま

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●53巻2号（令和4年3月1日発行）

締切 令和4年1月末日

●53巻3号（令和4年5月1日発行）

締切 令和4年3月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail：jimuj@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

りました。原稿をお寄せいただいた先生方にはあらためてお礼申し上げます。さて、来年はどのような一年になるのでしょうか。抗コロナ内服薬も開発が進んでおり、季節性インフルエンザと同等の感染症になる可能性もあります。社会生活状況も元通りは難しいでしょうが、同窓会などが以前のように開催できるようになって欲しいものです。そして、仁泉会ニュースにそれらの記事を掲載できることを期待しています。

皆様、良い年をお迎えください。

（治）



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局

TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636

e-mail／jimuj@jinsenkai.net



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434

原稿募集

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、
予定されているクラス会や支部会などが中止若しくは
延期を余儀なくされ、原稿が大幅に減っております。
ご多忙とは存じますがテーマ、題材を問わず広く原稿を募集いたします。
ご寄稿お待ちしております。

例：新型コロナウイルス感染症に対する日々の取組み、診察対応など近況報告等

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636

e-mail / jimu@jinsenkai.net